

< 合言葉 >

いつも 明るい あいさつ で
なにごとに 全力で 取り組む
だれにも やさしい 稲田っ子

いなだっ子

笠間市立稲田小学校

学校だより NO.5
令和5年4月23日(日)

端午の節句とこどもの日



現代では「こどもの日」として祝われる5月5日。この日はもともと五節句の「端午の節句」にあたり
ます。端午の端は「はじめ」という意味で「端午(たんご)」は5月の最初の午(うま)の日のことで
した。それが午(ご)という文字の音が五に通じることなどから、奈良時代以降、5月5日が端午の節句と
して定着したそうです。

江戸時代に入り、勢力の中心が貴族から武家に移るとともに「菖蒲(しょうぶ)」の音が、武を重んじ
る「尚武(しょうぶ)」と同じであることから、「端午の節句」は尚武(しょうぶ)の節句」として、武
家の間で盛んに祝われるようになったそうです。この節句は、後継ぎとして生まれた男の子が、無事成長
していくことを祈り、一族の繁栄を願う重要な行事になったようです。3月3日のひなまつりが、女の子
のための節句として花開いていくのに呼応するように、5月5日の端午の節句は男の子のための節句とし
て定着していったようです。

鎧や兜を飾ることは、武家社会から生まれた風習です。武将にとっては自分の身を守る大切な道具で、
シンボルとしての精神的な意味がある大切な宝物でした。現在は鎧兜が「身体を守るもの」という意味が
重視され、交通事故や病気から、大切な子供を守ってくれるようにという願いを込めて飾られています。
最近は大リーグで大谷翔平選手がホームランを打った時に、兜をかぶってベンチでハイタッチをして喜び
あっている姿が話題になっています。

鯉のぼりは、江戸時代に町人から生まれた節句飾りです。鯉は、清流はもちろん池や沼でも生息するこ
とができる非常に生命力の強い魚です。鯉が急流をさかのぼり、竜門という滝を上ると竜になって天に登
るという中国の伝説にちなみ(登竜門という言葉の由来)子供がどんな環境にも耐え、立派な人になるよ
うにとの立身出世を願う飾りです。

また、この時期には柏餅を食べる風習があります。柏の木は冬にも葉が落ちず、新芽が出るころ葉が落
ちるので、縁起のいい木とされていました。そこで、縁起のいいお餅に、縁起のいい柏の葉を巻いて食
べる柏餅を食べる風習が生まれたそうです。

日本の伝統行事には、いろいろな意味が込められているのですね。稲田小学校では、実際に本物を飾
って、各学年の発達段階に応じてそれらの意味を伝えています。子供たちにも伝統行事の良さを感じてほ
しいですね。

本日の授業参観でご覧いただけたかと思いますが、B棟1階に地域の方からお借りした五月人形を飾り
ました。20日に大吉とよ子様・宮崎佳代子様・鈴木隆様・宮崎守様の4名が来校し、飾っていただきま
した。貸していただいた皆様、飾りつけにご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。
飾りの背景は川松教頭先生のアイディアで大空に泳ぐ鯉のぼりが飾られています。さらに、中庭
やベランダには大きな鯉のぼりが上がっています。子供たちの成長が楽しみです。